

第2学年〇組 国語科学習指導案

平成19年〇月〇日 第〇校時

授業者 教諭 〇〇 〇〇

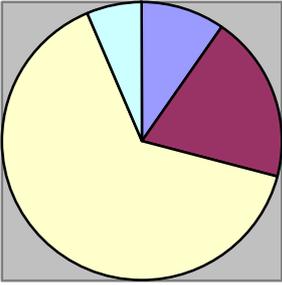
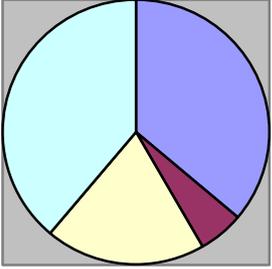
在籍 男子18名 女子18名

1 単元名 「文法の広場① 単語の分け方」

2 単元について

日々生徒たちの会話を聞いていると、「このおかず食べれる？」などのら抜き言葉だけでなく、「牛乳もう一本飲めれる」などれ付き言葉も使われている。また「うざい」「きもい」などに加えて、最近では「うざす」「きもす」などの造語も頻繁に耳にするようになった。生徒たちはそれらの言葉を何の違和感もなく使用しており、日本語のきまりに対する意識は低いものと考えられる。このような生徒の幼く、感情的な言語感覚の現状を見てみると、社会生活で困る場面も生じることが多々あると思われる。

今回文法の授業を行うにあたって学級でアンケートを実施した。以下は本単元に関わるアンケートの集計結果である。

<p>Q1 次のうち、あなたが最も苦手なのはどれですか。 ア 物語 イ 説明文 ウ 文法 エ 漢字</p> <p>Q2 なぜ苦手ですか。次のうちからあてはまるものを選びなさい。(複数回答可) ア 専門用語などの言葉が難しい。 イ 何のために勉強するか分からない。 ウ 授業では分かっているけどテストで点が取れない。 エ 前に習ったことを忘れてしまう。 オ その他</p>																	
<p>Q1 最も苦手なものはどれですか。</p> <div style="text-align: center;">  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; font-size: small;"> <tr><td>■ 物語</td><td>3人</td></tr> <tr><td>■ 説明文</td><td>6人</td></tr> <tr><td>■ 文法</td><td>20人</td></tr> <tr><td>■ 漢字</td><td>2人</td></tr> </table> </div>	■ 物語	3人	■ 説明文	6人	■ 文法	20人	■ 漢字	2人	<p>Q2 なぜ苦手ですか。(複数回答可)</p> <div style="text-align: center;">  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; font-size: small;"> <tr><td>■ 用語</td><td>13人</td></tr> <tr><td>■ 意義</td><td>2人</td></tr> <tr><td>■ テスト</td><td>7人</td></tr> <tr><td>■ 忘れ</td><td>14人</td></tr> </table> </div>	■ 用語	13人	■ 意義	2人	■ テスト	7人	■ 忘れ	14人
■ 物語	3人																
■ 説明文	6人																
■ 文法	20人																
■ 漢字	2人																
■ 用語	13人																
■ 意義	2人																
■ テスト	7人																
■ 忘れ	14人																

アンケート結果を見ると、約7割もの生徒が文法を最も苦手だと答えている。その理由としては、「専門用語などの言葉が難しい」「前に習ったことを忘れてしまう」という意見が圧倒的である。生徒達は文法特有の用語（主語、述語、修飾語など）の定義を理解できずにつまずいていることが良くわかる。またそのつまずきを改善できないまま、新たな文法事項に入るのでよりつまずきが増え、文法離れが進んでしまう。よってこれらの二つの要因を改善すれば、生徒達の文法離れに歯止めをかけ、だれもが理解できる文法の授業を展開することが可能だろうと考えられる。

国語科の使命の一つに「論理的思考力を高める」ということがあげられる。しかし、生徒達の会話の現状を見てみると主述が抜けていたり、根拠を示すことができないという問題点がある。人間は、文を作りながら自分の考えをはっきりさせていくため、きちんとした文ができなければ、正しい考えを展開することは出来ない。よって「食べれる」「全然いい」など乱れた日本語を使っている生徒達にこそ、文法の授業が必要だと考える。そして文法の授業を適切に実施することで、論理的思考力を高めることができると思われる。

本単元では、まず生徒に身近なテレビのインタビュー番組の一場面を導入として鑑賞させることから始める。生徒達に現代の若者の言葉の使い方が乱れているという認識をもたせることで、自分たちにとって身近な問題であるという問題意識をもたせることにつなげたい。そして、文法を学ぶことの大切さを実感させ、文法の授業に対し、積極的に取り組めるような課題意識をもたせることが重要である。

まず、つまずきの多い主語・述語・修飾語から復習をし、問題を解いていく中から既習の内容を補充していく。少しでも生徒のつまずきをなくし、文法離れに歯止めをかけていくことで、文法は難しいという意識を払拭し、言語に対する感覚を養いたい。また学習指導要領「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」の2の(1)に「日常の言語活動を振り返り言葉のきまりについて気付かせ、言語生活の向上に役立てることを重視するとともに、必要以上に細部にわたったり形式的になったりしないようにすること。」と示してあることを踏まえて、難解な言葉はあえて使わず、あくまでも実生活で生かせるように指導していくこととする。

3 単元の目標

(1) 文法の意義について考え、日本語のきまりについて積極的に取り組もうとしている。

(関心・意欲・態度)

(2) 用語の定義やそのはたらきについて理解を深め、語感を磨くことができる。

(言語事項)

4 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・ 文法の意義について考え、日本語のきまりについての関心を高めようとしている。	・ 用語の定義やその働きについて理解を深め、語感を磨くことができる。
具体的評価規準	① 言葉について関心をもち、目的に沿って問題に取り組み、日本語のきまりについて理解しようとしている。	① 主語、述語など既習の内容を再度理解し、適切に解答している。 ② 自立語、付属語など新たな用語の定義を理解し、語感を磨いている。

5 指導と評価の計画（全2時間）

時	学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○ ビデオ「トップランナー」を見る。 ○ プリントに沿って問題を解く。	○ 学習のねらいの把握 ○ 文の成分の見分け方（主語・述語・修飾語）	アの① オの① ・ 机間指導による観察 ・ ワークシートの考察 ・ 発言の様子や態度の観察
2	○ プリントに沿って問題を解く。 ○ 新出語句について理解する。	○ 自立語、付属語の定義と働き ○ 活用の定義と働き	アの① オの② ・ 机間指導による観察 ・ ワークシートの考察 ・ 発言の様子や態度の観察

6 指導の実際（本時 第1時）

○本時の目標

- (1) 文法の意義について考え、日本語のきまりについての関心を高めようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 既習の用語の定義やその働きについて理解を深め、語感を磨くことができる。
(言語事項)

7 本時の展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 ビデオ「トップランナー」を見て日本語について関心をもつ。 (1) ビデオを2回見る。 (2) おかしな日本語に気付いた人は発表。 2 教師の体験を聞く。 (1) 主語を変えてみる。 (2) 「家族以外は有料」ということに気付く。	○ おかしな日本語（全然～肯定）に対する感覚を磨かせる。 発問：「おかしいな」という日本語に気付くようにビデオを見ること。 ○ ソフトバンクのCM「家族はただ」を言い換えるとどうなるか。 ○ 主語が変わると文全体の趣旨が変わってくることに気付かせる。 ○ 文法を正しく理解しないと生きていく上で損をするということに気付かせる。	1 NHK「トップランナー」で水鳥寿思（アテネオリンピック金メダリスト）がインタビュー中に「全然うまい選手」「全然無理な」という場面を見せる。 2 ソフトバンクのCM「家族はただ」という情報は作られた表現である。 アの① ・ 発言の様子や態度の観察 *ビデオを見せることで日本語に対して積極的に興味をもたせる。

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
<p>3 既習内容の復習をする。</p> <p>(1) 目標をプリントに書く。</p> <p>(2) 主語、述語の定義を再確認する。</p> <p>(3) 言葉の単位を大きい順にワークシートに記入する。</p> <p>(4) 出来たら挙手。</p> <div data-bbox="153 734 512 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例 一塁手へ捕手が球を投げる。</p> </div> <p>(5) 練習問題を解く。</p> <p>(6) すべて丸が付けられたら黒板に解答を書きに行く。</p> <p>(7) 例文をワークシートに書く。</p> <p>(8) ①から④までの彼女がそれぞれどんな人かワークシートに書く。</p> <p>(9) 発表する。</p>	<p>○ 学習のねらいの把握させる</p> <div data-bbox="411 371 1066 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標：日本語に関する感覚を磨こう。</p> </div> <p>(1) まず主語述語の定義を再確認させる。</p> <p>発問：言葉の単位を大きい順に並べなさい。</p> <p>(2) 主語述語の見つけ方を確認させる。</p> <p>① まず述語を見つける。</p> <p>② 「何（だれ）が」を表す文節を見つける。</p> <p>(3) 練習問題で理解しているかを確認する。</p> <p>○ 修飾語</p> <p>(1) 修飾語の定義を再確認する。</p> <p>(2) 修飾語の働きに気付かせる。</p> <div data-bbox="536 1267 986 1469" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 彼女は歩く。</p> <p>② 彼女はさっそうと歩く。</p> <p>③ 彼女はよたよたと歩く。</p> <p>④ 彼女は泣きながら歩く。</p> </div> <p>発問：それぞれどんな人だとイメージできるか。</p> <p>○ 修飾語とは、他の文節の意味をはっきりさせる文節だということを理解させる。</p>	<p>* 本時の目標をしっかりと授業に臨むようにさせる。</p> <p>* 1年生段階の主述から振り返ることをつまずきのある生徒に支援をする。</p> <p>* 言葉の単位では特に、つまずきやすい文節について理解させる。</p> <p>* こまめに机間指導をし、丸付けをすることで積極的に授業に参加できるようにする。</p> <p>アの② オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導による観察 ・ ワークシートの考察 <p>* 定義だけではわからないので修飾語の違う例文を提示し、比較することで働きに気付けるようにする。</p> <p>アの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発言の様子や態度の観察 ・ ワークシートの考察

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
(10) 例文をワークシートに書く。 (11) 「一塁手へ」がかかる部分に線をひく。 (12) 発表する。 (13) 練習問題を解く。 (14) すべて丸が付けられたら黒板に解答を書きに行く。 (15) 答え合わせをする。	(3) 修飾される文節の見つけ方を確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例 一塁手へ捕手が球を投げる。 </div> ①まず文を文節に分ける。 ②修飾語の位置を一文節ずつ下げていき、意味の通じるところにあるのが修飾される文節。 (4) 練習問題で理解しているかを確認する。 ○本時のまとめ ○次回の予告	* 「被修飾語」という言葉は使わず「修飾される文節」とすることで生徒のつまずきを防止する。 アの① オの① ・ 机間指導による観察 ・ ワークシートの考察 * なるべくすばやく机間指導を行い、つまずいた生徒が自分で問題解決できるよう支援していく。 * 次回から自立語付属語に入っていくことを提示する。

中学校の成果と課題

〔成果〕

- 事前にアンケートをとることで、生徒達の文法に対する意識をとらえ、指導に生かすことができた。
- 導入でビデオを使用し、実際の会話の中から日本語の乱れを実感させることで、生徒が文法を身近なものにとらえ、主体的に目的意識をもって授業に参加することができた。
- 定義、例文、見つけ方、練習問題というステップのワークシートを使用し、机間指導をきめ細かく行うことで、生徒がどの段階でつまずいているのかを把握することが可能となると同時に、また生徒自身が自分で振り返って間違いを見つけられた。

〔課題〕

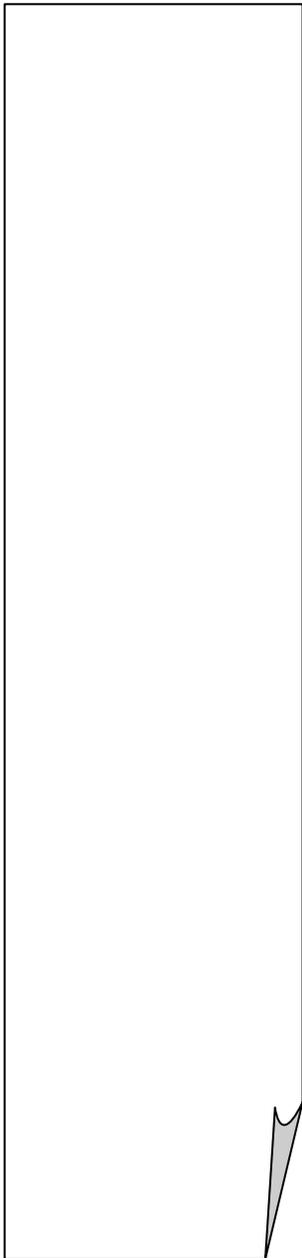
- 文法の授業で「わかる、できる」という段階まで到達しているものの、普段の授業で「使える」というところまで進めることができていない。国語の授業全体で日頃から文法に対して指導していく必要がある。
- 生徒の実態に重きを置きすぎたことで既習内容の復習で一時間が終わってしまった。どれだけ生徒に寄り添いながら、先を見通していくかが課題である。

文法プリント1 【文の組み立て】復習

組 氏名 ()

目標…

☆ビデオ「トップランナー」を見ておかしいと思った言葉は何ですか。



1 主語・述語

- ・ 主語は、「何(だれ)が」を表す文節。
- ・ 述語は、「どうする」などを表す文節。

述語は普通、文の () にある

*言葉の単位

() ↓ () ↓ () ↓ ()
文節とは、文を不自然にならないように短く切った一区切り。「」で区切る。

(1) 主語・述語の見つけ方

例



- ① まず述語を見つける。
- ② 述語の表す内容から、「何(だれ)が」を表す文節を探す。

【練習1】次の文の主語、述語を抜き出さない。

① 荷物が重い。 主語 () 述語 ()

② あれが出口だ。 主語 () 述語 ()

③ 小魚さえいない。 主語 () 述語 ()

④ 東から西へ雲がゆつくりと流れる。 主語 () 述語 ()

⑤ 彼女こそ、代表にふさわしい。 主語 () 述語 ()

⑥ 努力すれば、君にもチャンスがある。 主語 () 述語 ()

